<table>
<tr><td rowspan="2">科目区分</td><td rowspan="2">専門基礎分野</td><td>科目名</td><td>薬理学</td><td>対象学生</td><td>第１学年</td></tr>
<tr><td>単位数（時間数）</td><td>１単位（30 時間）</td><td>学　　期</td><td>第２学期</td></tr>
<tr><td>担当講師</td><td colspan="3">（院内講師）</td><td>実務経験</td><td>有</td></tr>
<tr><td>科目目標</td><td colspan="5">１．医薬品の生体内作用、薬剤の体内変化を理解する。
２．薬物療法における医薬品の取り扱いと薬効評価を理解する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="5">第 1～14 回　（講義）
１．薬理学の概要
　１）薬理学の概念
　２）医薬品開発
　３）医薬品と関係法規
２．薬理作用
３．薬物動態（吸収・分布・代謝・排泄）
４．薬物動態（薬物動態と薬理作用）
５．薬物相互作用
６．薬物の有害作用
７．化学療法（抗生物質、抗癌剤、免疫抑制剤、消毒剤等）の作用と取扱い
８．中枢神経系作用薬の作用と取扱い
９．末梢神経作用薬の作用と取扱い
10．循環器系作用薬の作用と取扱い
11．呼吸器系、消化器系、生殖器系の作用と取扱い
12．検査、診断薬の作用と取扱い

第 15 回　終了試験</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="5">筆記試験</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="5">系統看護学講座　薬理学　　医学書院</td></tr>
<tr><td>講師からのメッセージ</td><td colspan="5">形態と機能での学習内容を想起しながら、講義形式ですすめる。
薬物の有用性と有害性の両側面を明らかにし、看護に活用できるようにする。
薬物療法を受ける対象の看護と併用して学習する。
主な薬剤の作用と副作用（有害事象）、抗感染症薬、抗癌薬、強心薬、抗不整脈、狭心症治療薬、抗血栓薬、降圧薬、昇圧薬、利尿薬、消化性潰瘍治療薬、下剤、抗アレルギー薬、副腎皮質ステロイド薬、糖尿病治療薬、中枢神経作用薬、麻薬、消炎鎮痛薬、禁忌薬物、保存方法、薬理作用に影響する因子、薬物療法、薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）、薬効など、国家試験出題基準を確認し学習すること。</td></tr>
</table>